

2024年3月期 第1四半期 決算説明会



2023年8月3日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2024年3月期 第1四半期決算状況

2024年3月期 第1四半期決算におけるポイント	4
1. 売上高・利益	5
2. セグメント別業績	7
- 自動車電池（国内）	8
- 自動車電池（海外）	9
- 産業電池電源	10
- 車載用リチウムイオン電池	11
- 特殊電池およびその他	12
3. 貸借対照表	13
4. トピックス	14

2024年3月期 第1四半期決算状況

2024年3月期 第1四半期決算におけるポイント



2024年3月期 第1四半期業績 (4-6月)

	2022年度 第1四半期 (4-6月)	2023年度 第1四半期 (4-6月)	増減	前年比
売上高	1,114 億円	1,205 億円	+91 億円	+8.2 %
営業利益	36 億円	48 億円	+12 億円	+35.5 %
のれん等償却前営業利益	38 億円	49 億円	+11 億円	+29.0 %
経常利益	22 億円	49 億円	+27 億円	+119.7 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6 億円	16 億円	+10 億円	+169.3 %
のれん等償却前 親会社株主に帰属する 四半期純利益	9 億円	17 億円	+8 億円	+99.2 %

業績予想の修正

	2023年度 第2四半期累計予想 (2023.5予想値)	2023年度 第2四半期累計予想 (2023.8修正値)	増減
	2,600 億円	2,600 億円	±0 億円
	80 億円	90 億円	+10 億円
	-	-	-
	60 億円	70 億円	+10 億円
	15 億円	25 億円	+10 億円
	-	-	-

業績の動向

- ▶ 売上高および営業利益は、主にハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量の増加や、販売価格是正の取り組みにより増加しました。
- ▶ 経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、持分法による投資損益や為替差損益の改善などにより増加しました。

業績予想の修正ポイント

- ▶ 自動車電池（国内）や産業電池電源で売価見直しが進んだことに加え、エネルギー費用などが減少
- ▶ 特殊電池およびその他の航空機用リチウムイオン電池の好調や管理部門の経費削減
(通期に関しては状況が不透明なため据え置き)

4

© 2023 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2023年度 第1四半期決算のポイントです。

売上高は1,205億円と前年対比で91億円の増収でした。

営業利益は48億円と12億円の増益、経常利益は49億円と27億円の増益、四半期純利益は16億円と10億円の増益となり、全ての項目で増収もしくは増益となりました。

- ・売上高および営業利益は、主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量の増加や、全セグメントに関わる販売価格是正の取り組みにより増加しました。
- ・経常利益はおよび四半期純利益は、持分法による投資損益や為替差損益の改善などにより増加しました。

2023年度 第2四半期累計の業績予想の修正について、売上高は変更ありませんが、営業利益は当初予想80億円から90億円、経常利益は当初予想60億円から70億円、四半期純利益は当初予想15億円から25億円へと上方修正しました。

- ・自動車電池（国内）や産業電池電源などで売価の見直しが進んだことに加え、エネルギー価格が当初計画に対して改善していること
 - ・特殊電池およびその他は航空機用リチウムイオン電池が好調なことに加え、管理部門の経費の削減も見通せること
- 上記の理由から、第2四半期累計について上方修正を行いました。

一方、通期予想については下期が不透明な状況なため、現時点では据え置いています。

1. 売上高・利益



	2022 年度 第1四半期 (4-6月)	2023 年度 第1四半期 (4-6月)	増減	(前期比)	(億円) [参考] 2023 年度予想 (2023.5予想値)
売上高	1,114	過去最高 1,205	+91	(+8.2%)	5,800
売上総利益	241	258	+17		-
営業利益 (営業利益率)	36 3.2%	過去最高 48 4.0%	+12 +0.8P	(+35.5%)	330 5.7%
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	38 3.4%	過去最高 49 4.1%	+11 +0.7P		340 5.9%
経常利益	22	過去最高 49	+27	(+119.7%)	270
特別利益	10	4	△6		-
特別損失	1	7	+6		-
税前四半期純利益	31	47	+16		-
法人税等	13	15	+2		-
非支配株主に帰属する四半期純利益	12	15	+3		-
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	6 0.5%	16 1.4%	+10 +0.9P	(+169.3%)	140 2.4%
のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	9 0.8%	17 1.4%	+8 +0.6P		150 2.6%
国内鉛建値 (万円/t)	34.82	35.60	+0.78		34.6
L M E (US\$/t)	2,203	2,118	△85		2,100
為替 (円/US\$)	131.25	139.63	+8.38		135.00

5

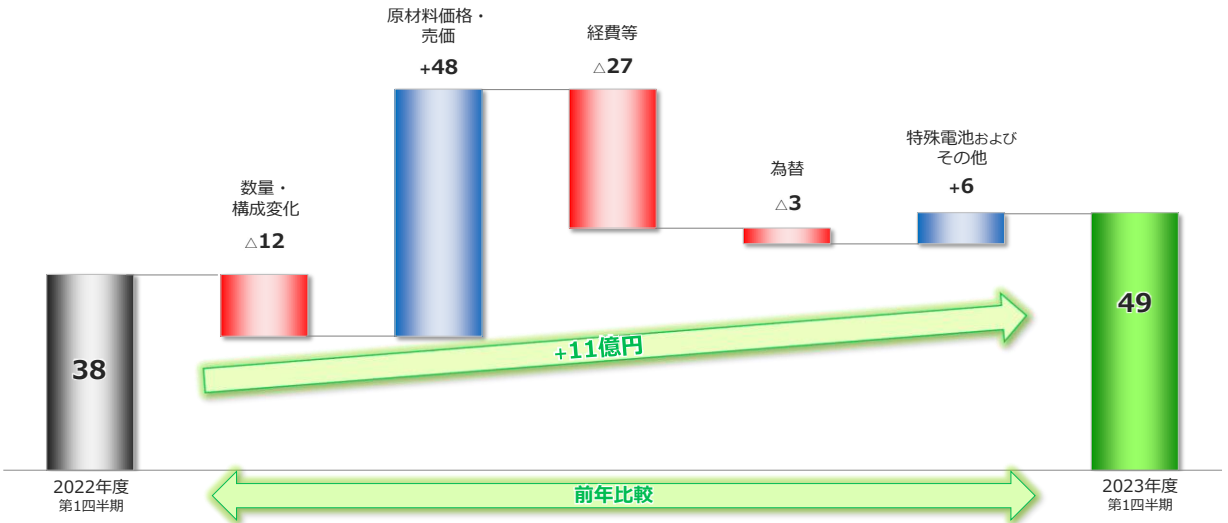
© 2023 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2023年度 第1四半期は売上高、営業利益、経常利益が過去最高となりました。

1. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年比較）

（億円）



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

のれん等償却前営業利益の増減要因です。

原材料価格の高騰などによる売価是正を2021年度・2022年度と続けている効果もあり、48億円の増益要因になりました。
ハイブリッド車を中心とした売上の増加に伴う経費増加もあり、27億円の減益要因となりました。

売価是正を主要因として、のれん等償却前営業利益は49億円と11億円の増益となりました。

2. セグメント別業績

		2022年度 第1四半期 (4-6月)		2023年度 第1四半期 (4-6月)		増減		(億円) [参考] 2023年度予想 (2023.5予想値)	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	売上高	営業利益 (利益率:%)
自動車電池	国内	177	10 (5.4)	196	10 (5.2)	+19	+0 (Δ0.2)	940	55 (5.9)
	海外	600	30 (5.0)	584	28 (4.7)	Δ16	Δ2 (Δ0.3)	2,520	150 (6.0)
産業電池電源		170	Δ5 (Δ3.1)	179	2 (0.8)	+9	+7 (+3.9)	1,110	90 (8.1)
車載用 リチウムイオン電池		124	4 (3.1)	195	4 (2.2)	+71	+0 (Δ0.9)	1,030	40 (3.9)
特殊電池およびその他		44	0 (0.2)	52	6 (10.9)	+8	+6 (+10.7)	200	5 (2.5)
合計		1,114	38 (3.4)	1,205	49 (4.1)	+91	+11 (+0.7)	5,800	340 (5.9)

23年度 第1四半期実績

- 自動車生産は新型コロナ禍や半導体不足影響の緩和により増加
- 鉛価格動向はLMEは安定的に推移も、円安影響を受けて国内鉛建値は高止まり (LME: 前年2,203⇒2,118US\$/t、国内鉛建値: 前年34.8⇒35.6万円/t)
- 為替は円安基調が継続 (前年131.25⇒139.63円/US\$)

(注1) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

(注2) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度1Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

自動車電池（国内）は売上高196億円で19億円の増収、営業利益10億円で若干（0億円）の増益となっています。

自動車電池（海外）は売上高584億円で若干（16億円）の減収、営業利益28億円で若干（2億円）の減益となりました。

産業電池電源は売上高179億円で9億円の増収、営業利益は2億円で7億円の増益。

売上高が前年対比で大きく伸びている車載用リチウムイオン電池は売上高195億円と71億円の増収、一方で営業利益は4億円と若干（0億円）の増益となっています。

特殊電池およびその他は売上高52億円で8億円の増収、営業利益6億円で6億円の増益となっています。

自動車生産については新型コロナ禍や半導体不足の影響が緩和されてきており、増加しています。

鉛価格については、LMEは安定的に推移しているものの、円安の影響も受けて国内鉛建値は高止まりしています。

円安基調は継続しています。

2. セグメント別業績（自動車電池（国内））

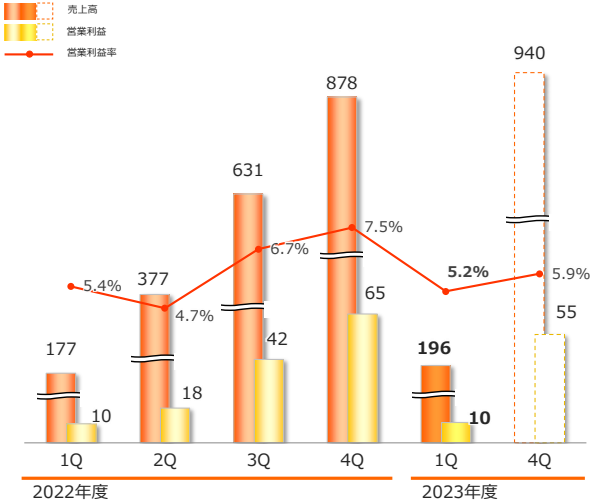
自動車電池（国内）

増収増益

売上高・営業利益・利益率

(億円)

2023年度 第1四半期商況 (4-6月)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

- ▶ [新車向け] 半導体不足の緩和による新車メーカー生産回復により販売数量が増加
- ▶ [補修向け] 新車向け需要の回復により販売数量は減少するも、売価見直しなどにより売上高は前年並みを維持

増減益要因 (4-6月)

数量・構成変化	△1	製品構成の変化による減少
原材料価格・売価	+3	売価見直しにより増加
経費等	△1	

自動車電池（国内）は売上高196億円で19億円の増収、営業利益は10億円でほぼ前期並みとなりました。

新車向けの販売数量は半導体不足の緩和による新車メーカー生産回復により、販売数量が伸びています。

補修向けの販売数量は若干減少しましたが、売価見直しなどを進めた結果、売上高は前年並みを維持しています。

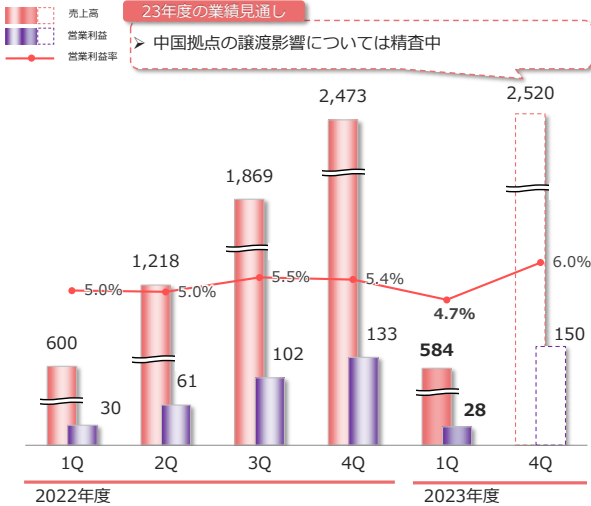
営業利益は、売価見直しによる増益効果で経費の増加をカバーしています。製品構成の変化で、数量・構成変化で若干不利に働きますが売価是正でカバーしています。

2. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

減収減益

売上高・営業利益・利益率 (億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

2023年度 第1四半期商況 (4-6月)

- [東南アジア] 📉
自動車用、オートバイ用ともに販売数量が減少
- [欧州] 📈
自動車用販売数量は前年並みで推移するも、売価見直しにより売上高は増加
- [中国] 📉
主として新車用販売数量が減少

増減益要因 (4-6月)

数量・構成変化	△27	主にインドネシアでの物量減
原材料価格・売価	+35	コスト上昇の売価反映により増加
経費等	△8	インフレ影響による経費増加
為替	△3	トルコリラ安の影響

自動車電池（海外）が唯一減収減益のセグメントで、売上高584億円で16億円の減収、営業利益28億円で2億円の減益となりました。

東南アジア、特にインドネシアにおける物量の減少が大きく響いています。また中国事業は持分譲渡を決めましたが、1Qは新車向け販売数量の減少の影響で売上高は減少しており、利益的にも厳しい状態でした。

そういった中でも、欧州をはじめとして一定の売価見直しができることもあり、減益幅は限定的となりました。

2. セグメント別業績 (産業電池電源)

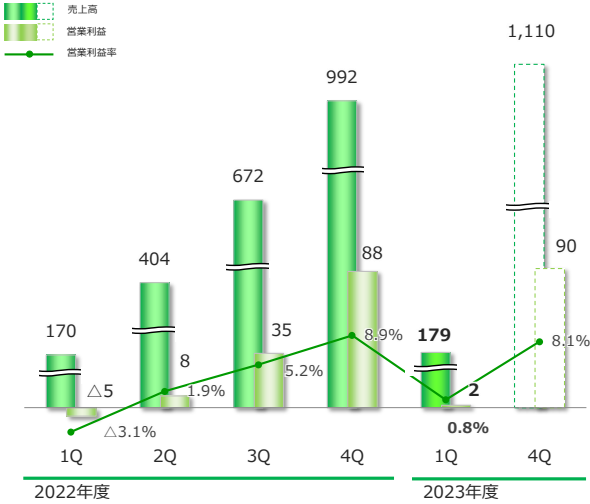
産業電池電源

増収増益

売上高・営業利益・利益率

(億円)

2023年度 第1四半期商況 (4-6月)



- ▶ [常用 (国内)] 2022年度下期より販売開始の蓄電システムの販売が増加
- ▶ [非常用 (国内)] バックアップ用電池電源装置は売価見直し、主として民需向けが堅調に推移した影響により売上高は前年並みを維持
- ▶ [フォークリフト用 (グローバル)] 国内販売数量は減少するも、売価見直しなどにより売上高は増加

増減益要因 (4-6月)

数量・構成変化	+0	
原材料価格・売価	+7	売価見直しにより増加
経費等	△0	

(注) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度1Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

産業電池電源は売上高179億円で9億円の増収、営業利益2億円で7億円の増益となりました。

バックアップ用電池電源装置の販売はほぼ前年並みとなっています。

今後伸びていく常用分野の販売が増加しています。

フォークリフト用についても国内は若干減少していますが、売価見直しなどにより売上高は増加しています。

利益面では2022年度に原材料価格高騰に対する売価是正を発表しており、その効果により増加しています。

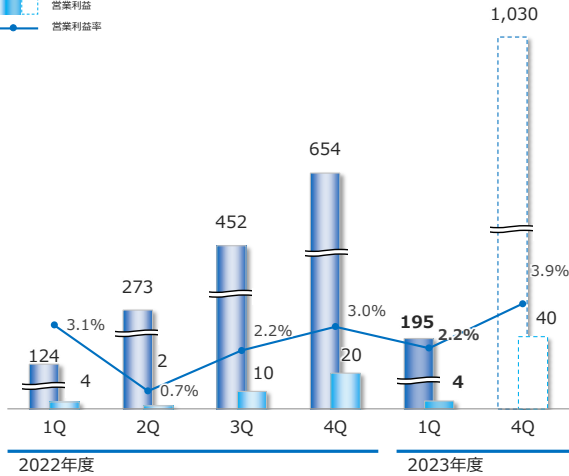
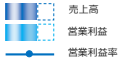
2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

車載用リチウムイオン電池

増収増益

売上高・営業利益・利益率

(億円)



2023年度 第1四半期商況 (4-6月)

- [HEV] 半導体不足緩和による新車メーカー生産回復、BECの生産体制強化により販売数量が増加
- [PHEV] 半導体不足緩和による新車メーカー生産回復により販売数量が増加

増減益要因 (4-6月)

数量・構成変化	+16	HEV・PHEV用LiBの販売増加
原材料価格・売価	+3	販売価格の見直しにより増加
経費等	△18	BEC第2工場稼働や物量増に伴う経費増加、BEV研究開発費増加

車載用リチウムイオン電池は売上高195億円で71億円の増収、営業利益4億円で前年並みとなりました。

ハイブリッド車用およびプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池ともに新車メーカー生産回復の影響で販売が増加しています。

ハイブリッド車用リチウムイオン電池は、特に新車メーカー向けの販売増加を見込んでおり、ブルーエナジー第2工場の稼働が始まるなど、生産体制の強化も進めています。

販売数量の増加や売価是正が進んだものの、ブルーエナジー第2工場稼働に伴う経費の増加や販売数量増に伴う影響、さらには原材料価格の高騰などもあり、利益としてはほぼ前年並みにとどまりました。

2. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

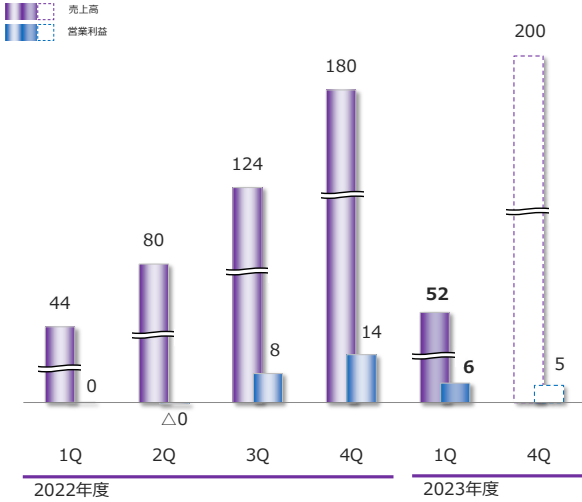
特殊電池およびその他

増収増益

売上高・営業利益

(億円)

2023年度 第1四半期商況 (4-6月)



- ▶ [航空機用リチウムイオン電池] 主としてエアライン（補修）向け販売数量が増加
- ▶ [潜水艦用リチウムイオン電池] 進行基準売上が堅調に推移
- ▶ [膜事業] 2023年度より、産業電池電源セグメントから移管

増減益要因 (4-6月)

航空機用エアライン（補修）向け販売増加ならびに経費の減少により増益

(注) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度1Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

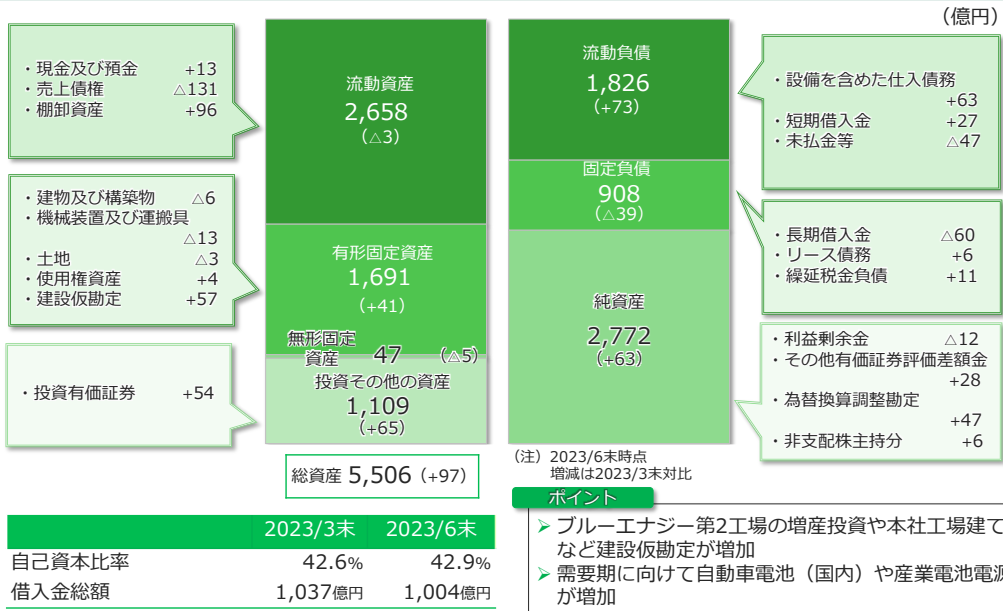
特殊電池およびその他は売上高52億円で8億円の増収、営業利益6億円で6億円の増益となりました。

航空機用リチウムイオン電池はエアライン（補修）向けの販売が増加しています。

潜水艦用リチウムイオン電池は販売が堅調に推移しており、増収増益の要因となっています。

管理部門の経費の減少もあり増益となりました。

3. 貸借対照表



2023年6月末時点の貸借対照表です。

総資産は5,506億円と3月末対比で97億円の資産増となっています。

有形固定資産で41億円、投資その他の資産で65億円増加しています。

固定資産についてはブルーエナジー第2工場の増産投資や京都地区でフォークリフト用の建屋を建設しており、建設仮勘定が57億円増加しています。

投資その他の資産は、主に保有株式の時価上昇によるものです。

流動負債は73億円の増加、固定負債は39億円の減少となっています。

長期借入金を1年以内返済予定の短期借入金に振り替えたため、固定負債は減少しています。

その影響で流動負債は短期借入金が増加、また仕入債務の増加もあり増加しています。

純資産については、有価証券の時価評価上昇に伴うその他有価証券評価差額金の増加と、円安による為替換算調整勘定の増加により、63億円の増加となっています。

結果、自己資本比率は2022年度末と比べて若干改善し、42.9%となりました。

借入金総額はまだ高水準が続いており、1,004億円となっています。

4. トピックス

中国拠点の整理について

譲渡の理由

▶中国事業の経営環境の変化

- 1.環境規制の強化
- 2.ゼロコロナ政策とその解除などで大きな変化に直面

社名	天津杰士電池有限公司 (TJGS)	湯浅蓄電池 (順徳) 有限公司 (YBSD)		
設立	1991年11月	2002年2月		
所在地	中国天津市天津経済技術開発区	中国広東省佛山市順徳区		
事業内容	自動車用鉛蓄電池の製造販売	自動車用鉛蓄電池の製造販売 およびオートバイ用鉛蓄電池の販売		
出資者 出資比率	変更前	変更後	変更前	変更後
	株式会社 G Sユアサ 92.5%	22.5%	株式会社 G Sユアサ 100%	30%
	広東湯浅蓄電池有限公司 (G Sユアサ100%子会社) 7.5%	7.5%		
譲渡金額 (概算)	約9.5億円 (49百万円)		約30.8億円 (158百万円)	

Leoch Battery にTJGS・YBSDの株式持分 **70%**譲渡

▶▶ **持分法適用会社**に移行

社名	Leoch Battery Company Limited (Leoch International Technology Limited 100%子会社)
設立	2007年4月
所在地	香港
事業内容	投資管理及び電池の販売

**技術支援は継続しつつも経営権を譲渡することが
TJGS、YBSDにとって最も有益な選択肢**

7月25日に適時開示を実施した中国拠点の整理についてまとめています。

今回、中国に2拠点ある100%連結子会社、天津杰士電池有限公司 (TJGS) と湯浅蓄電池 (順徳) 有限公司 (YBSD) について、70%の株式持分をLeoch Batteryに譲渡することを契約締結しました。

これにより、TJGSとYBSDは持分法適用会社に移行します。

当社の持分比率は30%残るので、引き続きG Sユアサとしての技術支援は継続して行きます。かじ取りの難しい中国事業の経営権をLeoch Batteryにゆだねることが、最適解であると判断しました。

4. トピックス

TJGS・YBSDの
売上高・営業利益・当期純利益

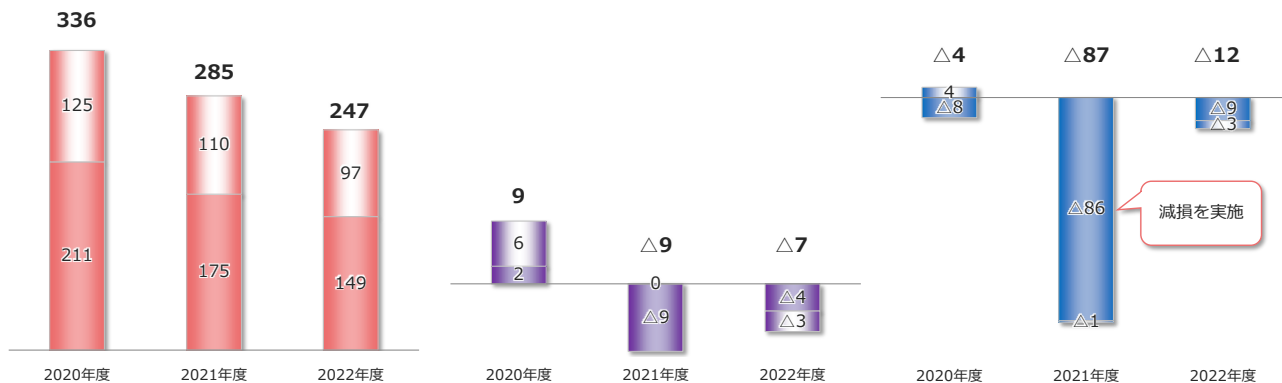
(億円)

《売上高》

《営業利益》

《当期純利益》

	売上高	営業利益	当期純利益
YBSD			
TJGS			



過去3カ年に渡るTJGSとYBSDの売上高、営業利益、当期純利益です。
下期より2社が持分法適用会社になるので、各利益への影響があると考えています。

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

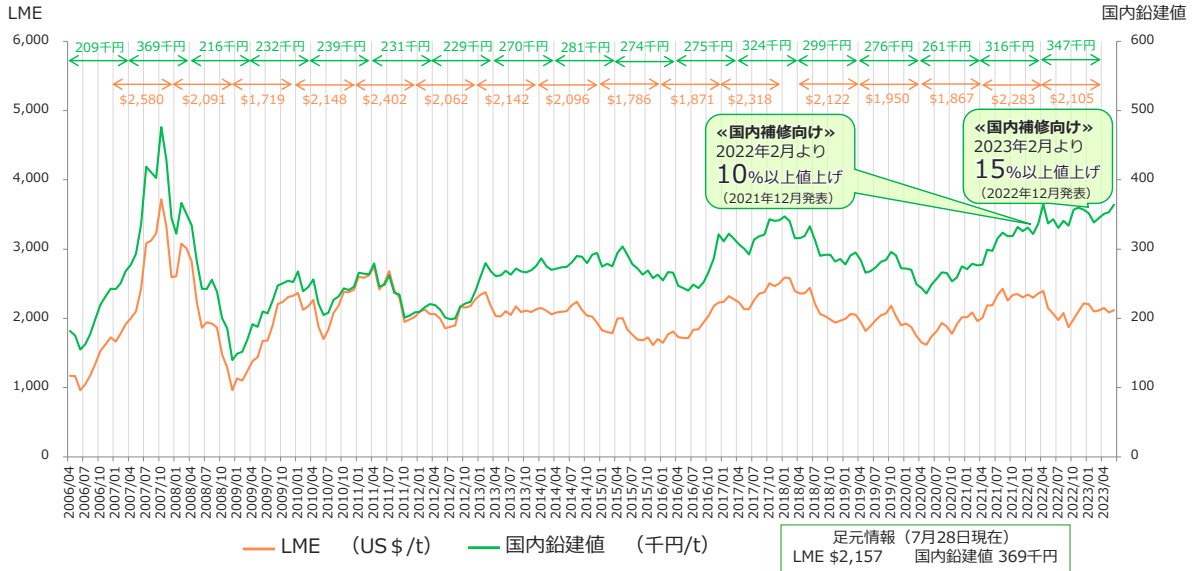


連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報） 青木 裕・西島 務・田中 祥太・神田 文
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

参考資料

原材料価格の推移



セグメント別業績の四半期推移

(億円)

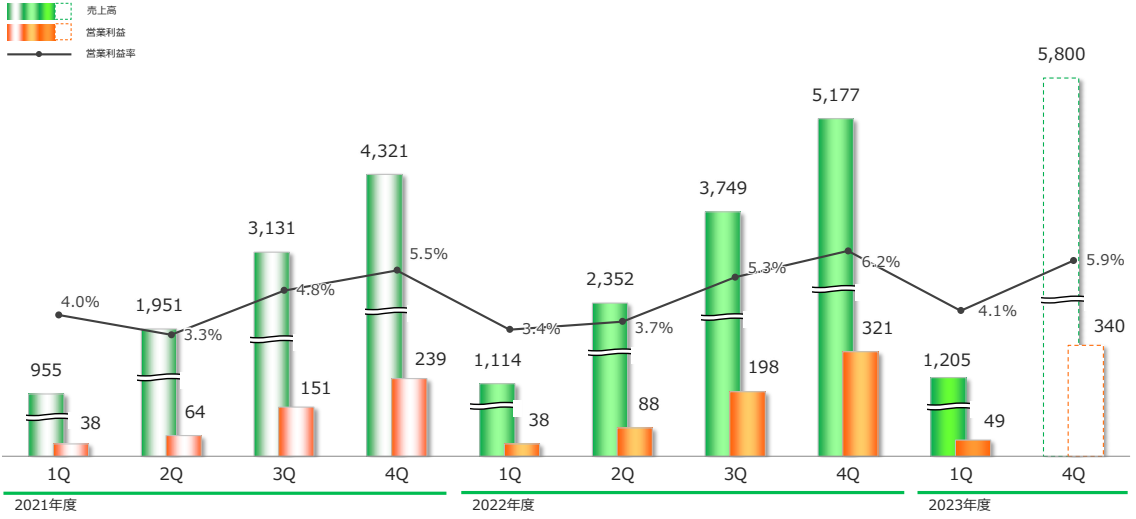
		2022 年度										2023 年度											
		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期 (4-3月)		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期見通し (4-3月)			
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)
自動車 電池	国内	177	10 (5.4)	200	8 (4.0)	255	25 (9.7)	247	23 (9.4)	878	65 (7.5)	92 (10.5)	196	10 (5.2)	-	-	-	-	-	-	940	55 (5.9)	-
	海外	600	30 (5.0)	619	31 (5.0)	651	41 (6.3)	604	31 (5.2)	2,473	133 (5.4)	201 (8.1)	584	28 (4.7)	-	-	-	-	-	-	2,520	150 (6.0)	-
産業 電池電源		170	△5 (△3.1)	229	12 (5.4)	268	27 (10.2)	321	53 (16.5)	992	88 (8.9)	106 (10.6)	179	2 (0.8)	-	-	-	-	-	-	1,110	90 (8.1)	-
車載用 リチウム イオン 電池		124	4 (3.1)	150	△2 (△1.3)	179	8 (4.4)	201	10 (5.0)	654	20 (3.0)	61 (9.3)	195	4 (2.2)	-	-	-	-	-	-	1,030	40 (3.9)	-
特殊電池 および その他		44	0 (0.2)	40	0 (0.8)	44	9 (19.9)	56	5 (9.6)	180	14 (7.7)	71 (39.4)	52	6 (10.9)	-	-	-	-	-	-	200	5 (2.5)	-
合計		1,114	38 (3.4)	1,238	49 (4.0)	1,397	110 (7.9)	1,429	123 (8.6)	5,177	321 (6.2)	530 (10.2)	1,205	49 (4.1)	-	-	-	-	-	-	5,800	340 (5.9)	550 (9.5)

(注1) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。EBITDAはのれん等償却前営業利益+減価償却費です。

(注2) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度1Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。